

# Let's “ten-saku”!!

## 1. トピックを設定する2つの視点

### <視点①> 生徒に何を書かせる??

#### ● 教科書で扱った内容に関連するトピック

授業内容に関連するトピックについて、“ten-saku”の5つの Step で考えることで、授業内容と帯活動がつながり、生徒の学習効果を高めることができる!

#### ● 生徒が自分事として考えることができるトピック

生徒が一度は生活の中で考えたり、経験したりしたことがあることをトピックにすることで、生徒の書く意欲を高めることができる!

### <視点②> 教科書のどこに注目する??

以下を参考に、実際に自分が使用している教科書で考えてみましょう!

Let's try!!

この内容から、  
どんなトピックが  
考えられるだろう?

All Aboard! English Communication I (TOKYO SHOSEKI)  
Lesson 1 This Is My House 世界の家  
モンゴルに住むドルジ(Dorj)と、アイスランドに住むラーラ(Lala)が、  
それぞれ自分の家を紹介するという内容。

本文やイラストなど、その Lesson に関連する一つの箇所に注目し、生徒が  
賛成の立場 / 反対の立場で答えられるトピックを考えてみましょう!!

どこに注目すれば?  
本文?タイトル?  
写真? etc.

#### (1) 本文全体に注目

(例) 住むならドルジとラーラの家どちらがよいか?

#### (2) ワードに注目(「モンゴル」「アイスランド」→「住む地域」)

(例) 住むなら熱帯地域と寒冷地域のどちらがよいか?

#### (3) タイトルに注目(本文とは別の「世界の家」の写真を示す)

(例) (家の販売者として) 家の魅力を紹介しよう!

(1)~(3)のように、  
内容に関連したものを  
設定しましょう!

本文の内容によっては、トピックが思い浮かばない場合や、自分の好みでトピックに偏りが出る場合もあると思います。そういう時は、教員間でアイデアを交流したり、生徒たちに考えさせてみたりするのもいいかもしれません。様々なトピックについて考えることは、生徒が自分の世界を広げるきっかけになります。“ten-saku”で、生徒の「考える」時間を増やしましょう!

# Let's “ten-saku”!!

## 2. これだけは指導しておきたい4つのポイント

### <ポイント①> 英文エッセイ特有の文章構成

英語のエッセイに特有な文章構成を簡略化した“OREO”のフォーム（参考資料③ 資料1）で書かせてみましょう。OREOとは、Opinion「意見」、Reason「理由」、Example「具体例」、Opinion「意見（再提示）」のことです。この流れでトピックに対する自分の考えを書くことから始めると、生徒の書くことに対するハードルが低くなります。

### <ポイント②> 『着眼点』の提示

生徒の中には、トピックを提示しただけでは何を書けばよいか分からず、書くことができない生徒もいます。そのような生徒には、『着眼点』の提示が必要です。

例えば、「ペットを飼うことはよいことだ。このことについてどう思うか。」というトピックで書くとします。賛成の立場であれば、「命の大切さを学ぶことができる」「（ペットの話題で）会話が増える」、反対の立場であれば、「エサ代や医療費がかかる」「アレルギーを悪化させる」のような理由や具体例が考えられると思います。これらを一言で表したものが『着眼点』です。

#### 『着眼点』を提示する方法

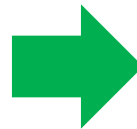
(1) 考えられる理由や具体例を挙げ、

(例1) 「命の大切さを学ぶことができる」

(例2) 「（ペットの話題で）会話が増える」

(例3) 「エサ代や医療費がかかる」

(例4) 「アレルギーを悪化させる」



(2) それらを一言で表現する。

『教育』

『人間関係』

『費用』

『健康』

“ten-saku”をくり返す中で、さまざまな『着眼点』が生徒の中に蓄積されれば、『着眼点』の提示がなくても、自分の『着眼点』を利用して書くことができるようになります。

### <ポイント③> 採点者の目線を養う相互評価

英語の資格・検定試験のライティング問題の採点基準などを参考に、自校の生徒に合う内容で生徒用の評価規準を作成します（参考資料③ 資料2）。これに従って、生徒同士でエッセイを評価し合うことで、自分がエッセイを書く時にも評価規準を意識することができるようになります。

### <ポイント④> 英文エッセイで使える表現紹介

教員が作成する模範解答や、生徒の答案の中から選んだベスト答案を提示することで、エッセイを書く上で参考になる英語表現などを紹介することができます。特に、模範解答は、自校の生徒に求めるレベルで作成します。そうすることで、生徒が「これならできる!」「真似してみよう!」と思うことができれば、生徒が使える英語表現がどんどん増えていきます。

# Let's “ten-saku”!!

## 3. 参考資料

### <資料1> OREO型ライティングシートの例

Opinion
Reason
Example
Opinion (restated)

英文エッセイ特有の文章構成を簡略化した“OREO”の流れでエッセイを書くことで、生徒はどのような流れでエッセイを書けばよいか分かります。なお、「書く活動」の初期段階で、このシートを活用するとよいと思います。

また、書くことに慣れてきたら、理由と具体例を2つ書くようにしたり、反対意見に言及させたりするようなシートにすれば、より説得力のあるエッセイを書くことができます。

生徒に応じて様々なシートを工夫してみてください。

### <資料2> 生徒用の評価規準の例

#### 5つのチェックポイント

①	英文エッセイ特有の文章構成で書かれているか？
②	トピックに合う内容の英文が書かれているか？
③	自分の考えを支持する理由が書かれているか？
④	書いた理由に合う具体例が書かれているか？
⑤	単語、文法・語法が正しく使われているか？



英語の資格・検定試験のライティング問題の採点基準を参考に作成するとよいと思います。あまり細かくしてしまうと、生徒が相互評価するのに時間がかかってしまうので、多くても5つくらいで、内容もシンプルに分かりやすいものにすると思います。例では、①で「構成」、②～④で「内容」、⑤で「語彙、文法・語法」について、生徒に注意を向けさせようと設定しています。生徒に応じてチェックポイントを設定すると効果が高まります。